



びぜんこくぶんじあと
—備前国分寺跡—

りょうぐうざんこぶん
—両宮山古墳—

しせき 史跡だより 第2号

岡山県赤磐市教育委員会 平成24年4月1日発行

僧侶の生活・修行の場 ～備前国分寺跡第7次調査～

平成23年10月初旬から2ヶ月間、僧侶が生活した建物である「僧房」の一部を発掘調査しました。僧房は一般的に東西に長い建物で、いくつもの部屋に区切られて使用されていました。調査の結果、創建時の僧房が1棟建ちと仮定すると、建物は南北6m・東西約78mであったと復元できることがわかりました。また、中央付近では、平安時代の中で建物が建替えられている痕跡が確認されました。僧房の東端からは、東海地方で作られたとみられる釉薬のかかった美しく高級な陶器（緑釉・灰釉陶器）が見つかりました。



僧房の中央付近の調査状況（写真中央：礎石）

うつわ かいゆうとうき 高級な器—灰釉陶器—



植物の灰を主な成分とする釉薬をかけた陶器で、東海地方で作られた。表面をたれる緑色の釉薬がとても優美である。当時の高級品で、本来はすらっとのびた口頸部がつくが破損している。僧房北東隅で出土した。
（時代：平安時代 器種：長頸瓶）

〒709-0816 岡山県赤磐市下市 337 番地 TEL086-955-0710

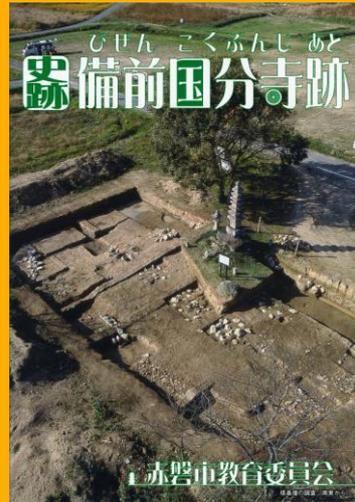
URL: <http://bunkazai.akaiwa-rekishi.jp/>

第1～6次にわたる国分寺跡の調査成果をまとめた

パンフレット完成、配布

写真や図を多く取り入れ、わかりやすい1冊ができあがりました。国分寺跡の地下に埋まっている遺跡の状況や復元される伽藍が示されています。また、出土した遺物についても解説されています。国分寺跡探訪には欠かせないパンフレットです。

市役所東の山陽郷土資料館で無料配布していますので、ぜひお越しください。



A4判フルカラー
8ページ

こうどう そせき 講堂の巨大な礎石引き上げ

きだんふくげん
～基壇復元に使用する本物の石～

国分寺跡の水田の地下に残っていた奈良時代の講堂の礎石4個を重機で引き上げました。礎石はとて巨大で、長さ 1.5m・厚さ 70cm・推定重量2tの大きさです。当時の人々はどうやって運び込んだのでしょうか？当時の建物は木造のため残っていませんが、巨大な礎石が建物の大きさを想像させてくれます。

柱がたつ面は平らで、ほぞ穴や柱座などは彫られていません。石材は流紋岩です。

引き上げた礎石は、復元する講堂基壇に再利用しますので、ご期待ください。



平成24年度も引き続き、備前国分寺跡僧房などの発掘調査（第8次調査）を続けます。お気軽に調査現場にお立ち寄りください。貴重な発見がありましたら、現地公開等を実施する予定です。



史跡備前国分寺跡・両宮山古墳周辺図